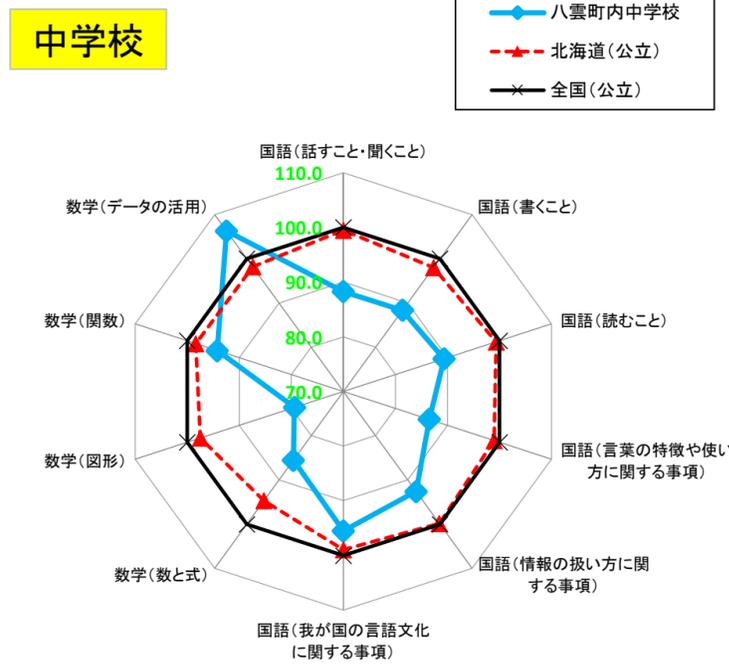
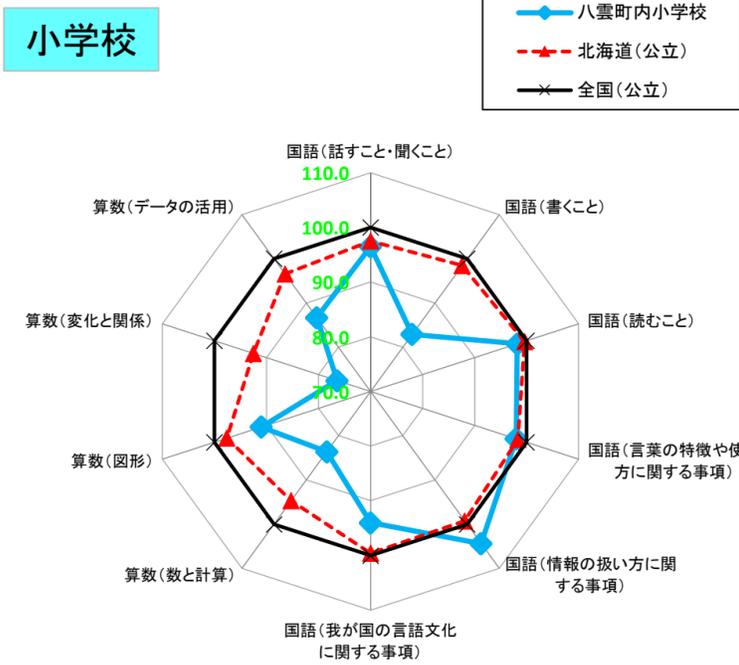


■八雲町内の状況及び学力向上策（小学校数：7校、児童数：97人）（中学校数：4校、生徒数：97人）

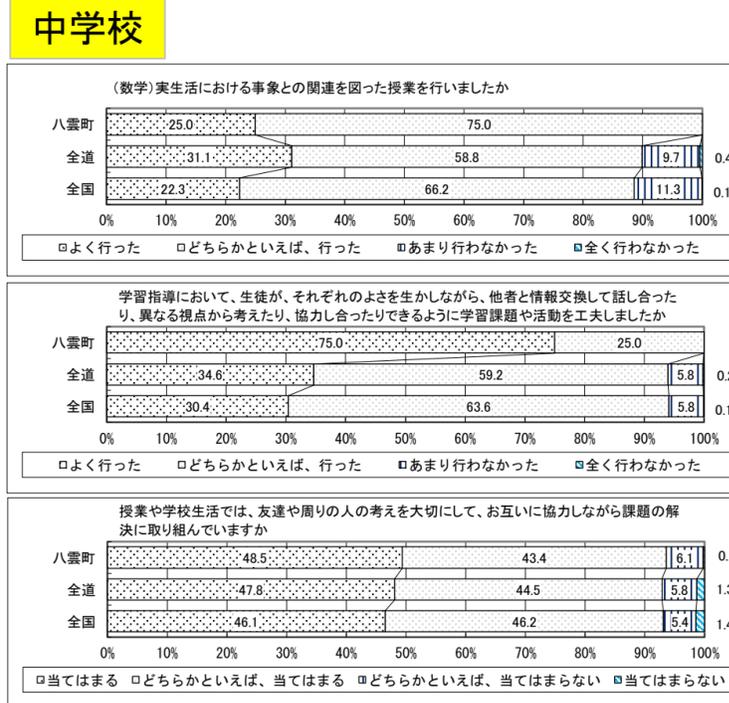
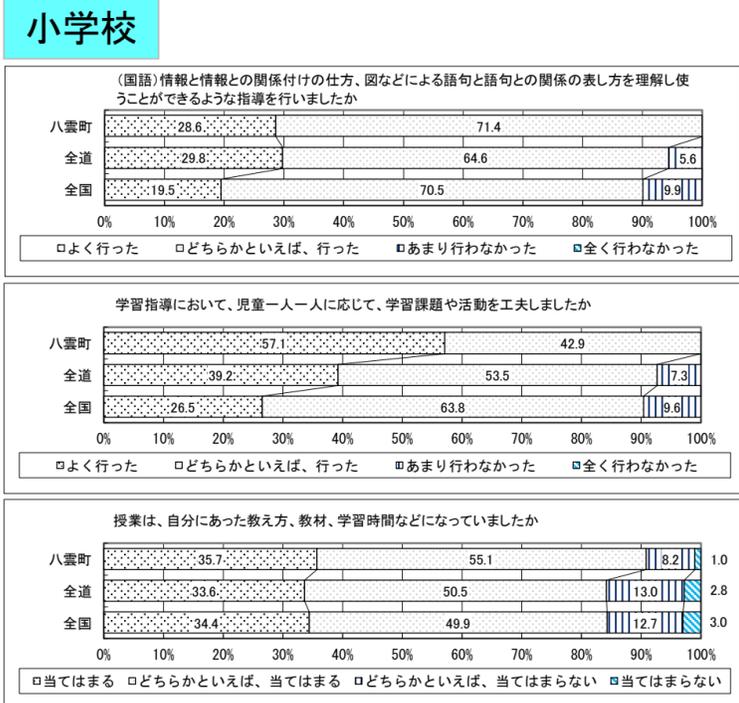
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	52
算数・数学	54	49



【質問調査の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、国語の「情報の扱いに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【八雲町の学力向上策】

- ◎ 「基礎的・汎用的読解力」の育成に視点を当てた授業改善に係る共通実践事項「八雲スタイル」の推進
- ◎ 全小・中学校における活用ロードマップに基づいた、1人1台の学習用端末の日常的な活用“普段使い”の推進
- ◎ 各中学校区内で目指す15歳の姿を共有した「小中一貫型コミュニティ・スクール」の推進

【Webページ】

